

まいどさん

足寄町商工会青年部

H30.11.1 No.179

経営研修委員会 森

☆青年部インタビューリレー☆

青年部員一人ひとりのことをより深く知ってもらうためにリレー形式で紹介をしていきます。

第8回は儀間雅真部員です。



儀間 雅真

1987年2月	神奈川県相模原市出身
2005年3月	神奈川県立上鶴間高等学校 卒業
2008年3月	日本外国語専門学校 卒業
2009年8月	株式会社日本空港サービス 退社
2010年4月	株式会社プライム 退社
2013年8月	株式会社トゥーライズ 退社
2017年1月	狩猟に興味を持ち、その後地方移住に興味を持ち始める
2017年3月	株式会社スイング 退社
2017年3月	足寄町地域おこし協力隊 着任
2018年7月	GuestHouse ぎまんち開業

～足寄町にくる前は何かをしていましたか？

学校を卒業してから千葉県にある成田空港内で様々な航空会社からグランドハンドリング(地上業務)を委託されている会社に就職しました。様々な部署を回らせていただき、行った業務内容は輸出入貨物の組付けや荷ほどき(貨物課)、海外の航空会社からのロードコントロール(航空機に積載される重量物、乗客、燃料、貨物の重さを計算し、飛行時の重心を管理する業務)指示の仲介(運行管理課) 機内清掃(清掃課)、を行っていました。

曲がりなりにも勉強した英語を活用したくて入った会社でしたが、約1年ほどで仕事に飽きてしまい、退職を決めました。

その後2か月ほど一人ニート生活を満喫していたところ、一緒にオンラインゲームをしていた一度も会ったこともない人に「ニートかよ！仕事しろ！」と言われ求人を漁り、賃貸不動産屋に就職、窓口営業をしていましたが、ただでさえ少ない休日にも拘らず掛かってくる仕事の電話に嫌気がさし退職。

次に入社したのは美容室の経営を行っている会社でした。

最初はチラシ配りのアルバイトから始め、せっせと働いていたらあれよあれよと任せてもらえる仕事の幅は広がり、商材の値切り交渉、求人掲載から面接、美容室各店への防犯カメラの設置設定などこれまでやったことのない業務や、その裁量も増えていきましたが、自分以外は経営者とその右腕の方のみということもあり、仕事に対しての接し方など仕事におけるあらゆる角度の考え方を夕方くらいから終電前(0時くらい)、時には翌朝まで延々と聞かされ(出社は9時)、時折きちんと話を理解しているか自分自身の言葉で説明を求められ、理解していないと判断されるとまた説明が入り、エンドレスな日も・・・。

どんなささいな仕事のミスでも、なぜミスが起きてしまったかということまで突き詰められ、そしてまた夜が明けていく・・・そんな日々が3年ほど経ち、ある日何かの糸が切れたように退職を決断し、逃げるように退職をしました。つらい日々でしたが、やりがいも感じていて、これまでで一番長く働いた職場で、ここまで続いたのも様々な仕事に携わったことが自分に合っていたようでした。当時の経験によって仕事などに対する応用力もつき、そこで培われたものは今日の自分にとって大きな財産となっており、大抵のことは乗り越えられるし、なんとかなる。という変な自信にもつながっています。

次に入ったのが高所ビルの窓清掃の会社でした。

この仕事は以前からやってみたかった仕事でしたが、初めて高所の作業を担当させてもらったときはとても腰が引けていて動きも固かったのを覚えています。

高所作業のある日は常に死ぬかもしれない現場でしたが、慣れてくると作業は非常に楽しく、前回よりも早く作業を終わらせることや、生きて仕事を終わらせて帰ることに達成感を覚えています。

窓の清掃作業だけでなく、床の清掃、ワックスがけ業務や事務処理などここでも様々な仕事をさせて頂きました。会社の人も時には厳しく、優しく。と絵に書いたような良い会社でした。~~命がけの割には薄給でしたが、~~移住をすることにならなければ、ずっとここで世話になっていたかもしれません。

この頃から毎年自分に対して1年の目標を設け、迷いなどが生じたときは目標を思い出してそれに沿う行動をしてきました。そして2016年の年明けの目標が、“一度興味を持ったことは最後までやり遂げよう”ということに興味を持ったのが狩猟。そこから地方への移住にも興味を持ち始め今日に至っています。

ちなみに2018年の目標は昨年帯広方面などたくさん外に出て行ってインプットをしてきたので、今年は町に引きこもり、インプットではなくアウトプットをしようということで、かねてから始めたかった民泊事業に着手しました。

～協力隊としてどのようなことを行っていますか？

任用期間(最大3年)が決まっている地域おこし協力隊は行政から与えられる業務と任用期間終了後、地域への定住につなげる活動の2つの活動を行っています。

まず、役場からの業務として、特産品開発やチャレンジショップの支援などを行いました。

ある時にラワンぶきがチュロスという焼き菓子に似ているなと思ったことがきっかけでラワンぶきチュロス開発を思い立ちました。材料集めには農畜産物加工研究会、提供場所としてチャレンジショップ **feetmeet** の皆さんの協力を経てラワンぶきチュロスは完成しました。

他にも道の駅前の広場を活用しようと始めたのが様々なミニイベント。

ラワンぶきシーズン前のミニふきまつり、松山千春のものまね&のど自慢大会、フリーマーケットなども精力的に行ってきました。

その時に常に大事にしていたのが、あまり人手や手間をかけないで最小限の労力で行うことでした。

現在様々な地方で担い手不足によるイベント疲れが叫ばれているのを耳にします。これからどんどん担い手が減っていく中で、イベントをしていくこと自体が困難になってくるので、主に主催側数名で行える範囲でやっていくことに重きを置き、手伝いをお願いすることもせず、自ら手伝いの手を挙げてくれる方がいらした際は有難く手伝っていただく体制で行いました。青年部主催イベントなどにも、この経験を活かして、継続性のある賑わいづくりを、今後もやっていきたいと思っています。

その他にも町のイベントや物販イベントの手伝いを行いました。

自身の定住に向けた活動としては、毎週のように帯広へ通って起業に関するセミナーや同友会に参加したり、地域で知り合いを増やすために町内外問わず、様々な団体やイベントに顔を出したりしてきました。

そこで出来た様々なつながりはとても掛けがえのないものとなっています。

そして、2018年7月から、民泊事業を開始しました。

～商工会青年部に入部した経緯について

足寄町協力隊の内定を頂き、足寄への移住が決まった後も都内近郊で行われていた移住関係のイベントに参加していました。

その時に地域おこし協力隊として起業し、幅広く活躍している大樹町の方と出会い、話を聞くと近々足寄町の商工会青年部の研修の一環で話をする機会があるということで、自分も参加したいと思い問い合わせしたところ、快諾を頂き引っ越してから数日後に経営研修に参加させていただいたのが青年部の皆さんとの最初の出会でした。

その後、妻が先に青年部加入が決まり金魚のフンで参加していました。

そうしているうちに堂田部長が商工会長と町長に僕の入部について、調整を行ってくれたおかげで青年部活動を行えることになりました。

青年部に入ったことで、よりいっそう町に溶け込みやすくなったと感じており、宿を始めるにあたっても部員の皆さんにはたくさん助けていただきました。

そういった自身の経験から他所の協力隊と会った時も青年部に入った方がよいと勧めてまわっています。

～ヨソモノから見て足寄町はどうですか？

移住する前も後も感じるのは足寄町には個性的な方が多いように感じます。

神奈川に住んでいた頃は足寄町という名前すら認識しておらず、移住候補先として初めて訪れた際もどんなものがあるのかも知らず、町の方と触れ合っていく中で魅力を感じ、移住するまでに至りました。

移住先を検討しているときも感じていたのが、地方ってどこも一緒に自然はあるし、ご飯はおいしい。では、その地域の独自性ってどこにあるのだろうと考えたときにそれは“地域の人”であると感じていました。

前向きに意欲的な活動を行っている若手経営者から還暦を超えても元気なベテランの方まで層の厚さを感じます。そして、共通しているのは新参者でも快く受け入れてくれる懐の深さです。

よくある話としてヨソモノがその地域で何かを始めようとすると茶々が入るということはどこでも言われていることではありますが、今のところそう言ったこともなく、こういった懐の深さが足寄町の魅力ではないかと思っています。

地方移住をして起業をしたという経験談を話してほしいという依頼が少しずつあり、都市部の移住希望者とながら機会が増えてきているので、足寄の懐の深さをアピールしていきたいです。

～今年から始めた民泊について聞かせてください

まず、自分たちの目標として、移住前にできた生活はしないという思いがありまして、任用期間が終わったら自分たちの力で食べていく分くらいは稼いでみたいという考えがありました。

また働き方に関しても、僕自身飽きっぽい性分なので、ひとつの事で稼いでいくのではなく、複数の稼ぎの柱を作って生活の基礎を作っていきたい、副業ならぬ“複業”によって生活していきたいと考えています。

例えば、自然ガイド1本でやっていくのは大変そうですが、宿もやりつつ、早朝は畑作業の手伝い、空いた時

間でガイドをする・・・など時間をコントロールして様々な仕事を掛け合わせてやっていく方が一つの事業がダメになってしまったとしても、総崩れするリスクも抑えられ、何よりも自分に合っていると思っています。

また、これから増々深刻なものとなっていく人手不足の時代において、この働き方は当たり前になってくるのではないかと考えています。

前置きが長くなりましたが、その中でも民泊を選んだのは時間のコントロールがしやすく、手間も最小限で自宅の空きスペースを使うので、リスクが少ないと感じたからです。

民泊の主な業務はチェックインの対応と清掃業務くらいです。

取られる時間も1時間程度なので、空いた時間で他の仕事ができるのではないかと考えました。

民泊を始めてみると、移住してきてから知り合った町内外の方、その方の紹介などのご利用が多く、ご縁がご縁を呼んできて頂いている状況です。

外国の方の利用は数組程度で、札幌から知床に自転車に向かう途中によってくれたフランス人もいました。

～今後の展望など聞かせてください

来年度で協力隊としての任期が終わるので、その後の定住につなげるために民泊をベースに、移住のきっかけとなった狩猟も収入源のひとつ(肉、皮の利活用、ガイドなど)にできるように頑張りたいです。足寄猟友会の方と今後少しずつ進めていく話をしています。

また、協力隊制度ももう少し幅広く使いやすい環境になればより一層まちの賑わいも増えてくると思います。

現在、全国で協力隊期間終了後に起業した例はその内3割程度(総務省：平成29年度地域おこし協力隊の定住状況などに係る調査より)です。

協力隊期間中に起業した例はさらにそれよりも少なくなるので意外と少ないです。足寄町においても前例のないことでした。

自身が起業できたのは様々な方のご理解やご支援があったからこそ実現したことでしたが、自分の活動を前例にこれから来るであろう協力隊がより起業をしやすい様な体制を整えたいとも考えています。

<事業概要>

名称 GuestHouse ぎまんち

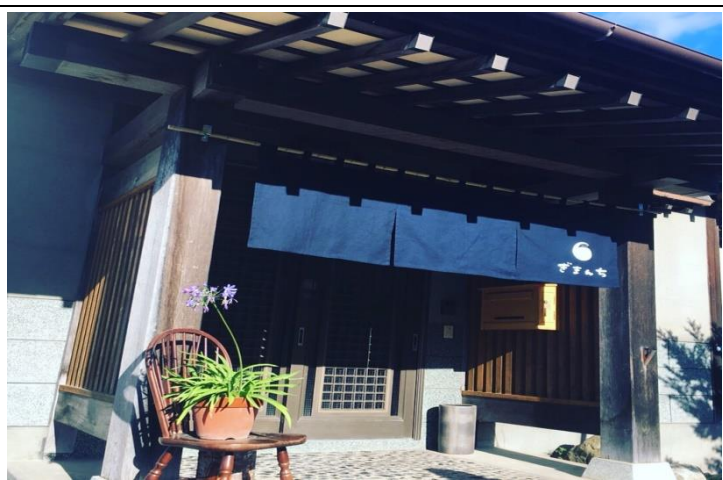
代表 儀間雅真

住所 足寄郡足寄町西町2-4-7

電話番号 080-4504-8641

事業内容 民泊

創業 2018年6月



次回予告

次のインタビューリレーは・・・